

令和8(2026)年度 一般選抜前期①(令和8年2月1日実施分)「国語」出題意図

大問㉑ * 評論・論説文の読解能力を問う。(石黒 圭『コミュカは「副詞」で決まる』)

- 問一 読点の付け方に係る問題。絶対的なルールがないだけに読解力の高低が問われる。
- 問二 傍線部分の説明として最も適切なものを選択する問題。傍線部分の読み取りは勿論、それぞれの選択肢の違いを吟味する緻密な読解力の有無を検証した。
- 問三 漢字力を試すため、二字熟語の「上の漢字」と「下の漢字」それぞれと同じ漢字が使用されている別の熟語を選択する問題であり、熟語全体としての意味を大まかに暗記しているだけでは対応が困難である。
- 問四・問五 傍線部分の趣旨を指定の字数以内で説明する記述問題。表現力が試されるのは勿論だが、今回は特に、実例を自分自身で考え出したり、本文中には表現されていない内容を他の部分から類推したりする力を試した。

大問㉒ * 小説・随想文の読解能力を問う。(大江健三郎『セヴンティーン』)

- 問一 二字熟語のどちらか一字の正しい表記を選択する問題。単漢字を問うているように見えるが、結局は熟語を正しく訓読できていないと正解は選び難い。
- 問二・問三・問六 傍線部分の説明として最も適切なものを選択する問題。特に問六は「まったくの話がねえ……」という部分に傍線が施されており、会話の流れや心理の移り変わり、発言者の心情など多方面に目を配りつつ小説を読解できる力があるかどうかを試されている。
- 問四・問五 傍線部分の趣旨を説明する記述問題。ともに会話部分に関する問なので、たとえば問四は「首尾一貫」の文脈上の意味の把握が、また、問五は「ミキサー」の比喩的意味の説明の仕方がポイントとなった。どちらもその説明は文中には「文字としては」書かれておらず、真の読解力が試されるものとなった。

大問㉓ * 慣用句・諺・四字熟語等の意味・用法を問う。

- 問一 当該の意味を持つ語句または慣用句を選択する問題。(3)は「変化がなく面白くないさま」の意味を持つ慣用句として「曲がない」を選択する問題だが、これは、通常の学習において「曲」という漢字に「面白み」という意味が生まれた経緯を確認する姿勢が確立しているかどうかを試すものでもある。
- 問二 慣用句あるいは諺の一部分の漢字表記を問う。(2)の「《 》が肥えている」は、「肥える」という表現の比喩的意味の理解を前提とするのみならず、実際この慣用句が用いられるのは、その「肥えた目」を駆使して「物の善し悪しを見抜く」場面が多いことへの理解も求められる。
- 問三 指定された意味に相当する四字熟語を選択する問題。四字熟語は、四つの漢字が漢文構造を維持しながら、全体として慣用句としての意味を有するものなので、日本語の語彙力の中核をなすものと言える。(3)の「物事が調子よく進みはかどること」を意味する四字熟語は「順風満帆」。「順風」は「逆風」の反対語だが、同時に比喩表現としても対置的な関係にある。「順風満帆」は「すべて自分にとって都合よく物事が進んでいるさま」を視覚的に表現した四字熟語である。